

○入間市民のバス利用状況

・豊岡地区、藤沢地区居住者の利用者が多い
 ・その他の地域においては、入間市駅・武蔵藤沢駅からの利用は少ない状況にある。

入間市居住地域別
西武バス 利用頻度(入間市駅+武蔵藤沢駅)

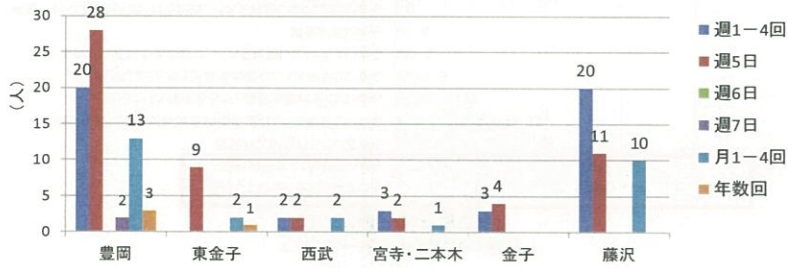
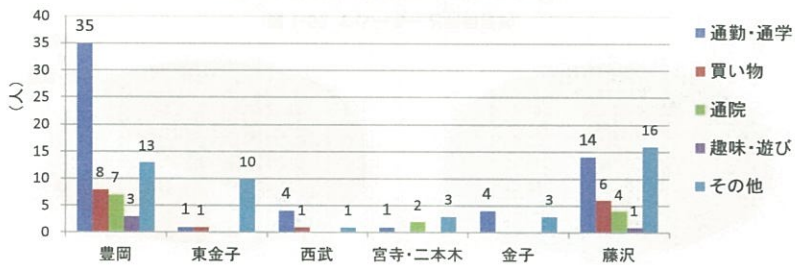


図 1-53 バス利用者居住地と利用頻度

入間市居住地域別
西武バス 利用目的(入間市駅+武蔵藤沢駅)



※「その他」には、「帰宅」という目的が多い

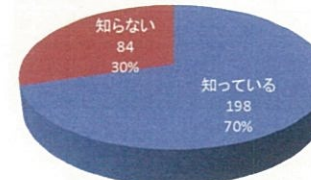
図 1-54 バス利用者居住地と利用目的

○ていーろーどについて

【認知度】

ていーろーどの認知度
(入間市駅+武蔵藤沢駅)

・認知度は高く、7割の方が認識している。



ていーろーどの認知度
(入間市駅)

ていーろーどの認知度
(武蔵藤沢駅)

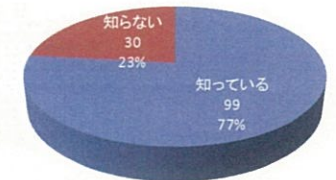
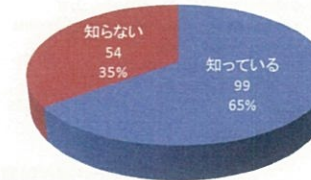
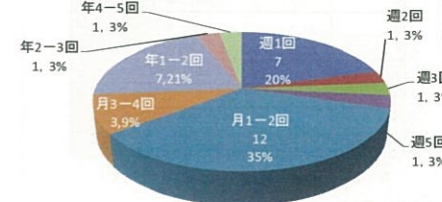


図 1-55 ていーろーどの認知度

【利用している人の利用頻度】

ていーろーど利用頻度
(入間市駅+武蔵藤沢駅)

・月1~2回の利用が最も多い。
 ・武蔵藤沢駅では、年1~2回の利用が多くなっている。



ていーろーど利用頻度
(入間市駅)

ていーろーど利用頻度
(武蔵藤沢駅)

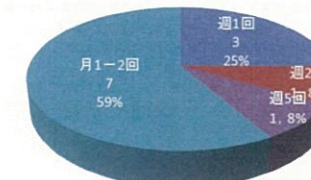


図 1-56 ていーろーど利用頻度

【利用している人の利用目的】

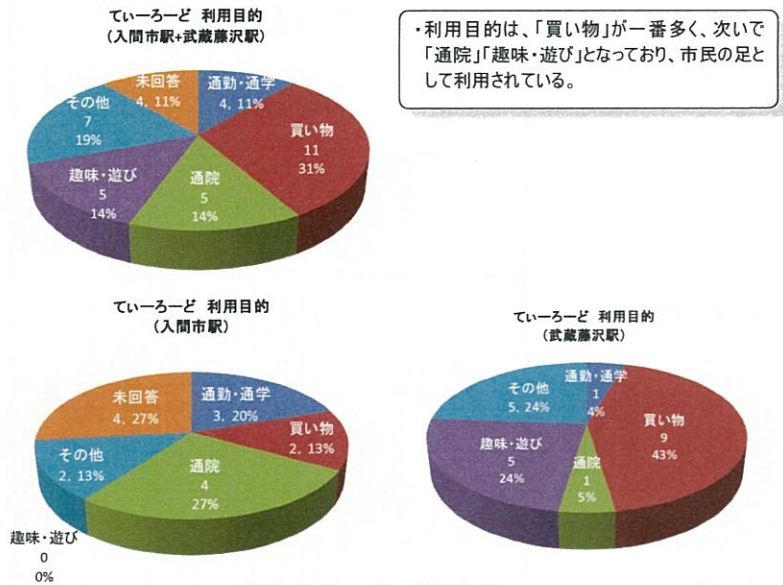


図 1-57 ていーろど利用目的

【利用しない理由】

・利用しない理由は、認知の問題であり、「運行を知らない」が最も多く、次いで「運行内容を知らない」となっている。

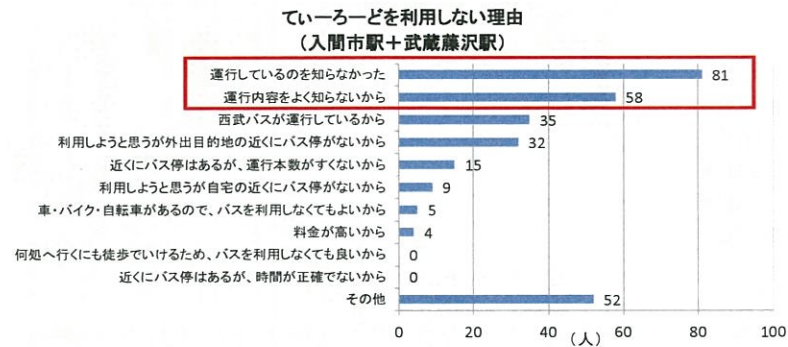
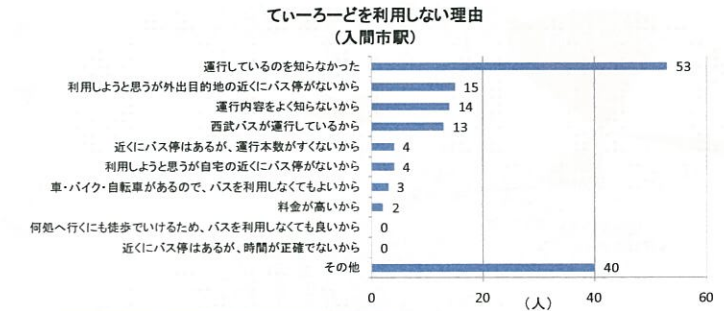


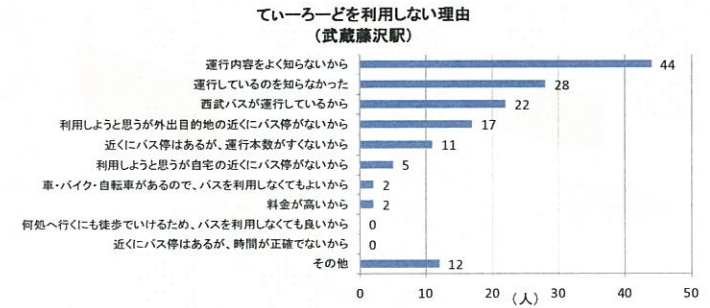
図 1-58 ていーろどを利用しない理由 (全体)

◆入間市駅:利用しない理由



その他の利用しない理由	n
乗る必要がない。	16
遠回りするから。	7
一般のバス路線で十分。	5
利用する機会がない。	3
行先が違うので。	2
時間帯が合わないから。	2
自宅の方に来ないからいらぬ。	2
行先も時間帯も合わない。	1
時間がかかるから。	1
未回答	1

◆武蔵藤沢駅:利用しない理由



その他の利用しない理由	n
行く用事がないため利用しない。	3
利用目的地に行く機会がないため。	3
運行の経路が合わない。	4
高齢者が多いイメージ。	1
市役所 美術館へ行く以外利用しない。	1

図 1-59 ていーろどを利用しない理由 (駅別)

②ていーろど利用者意向調査

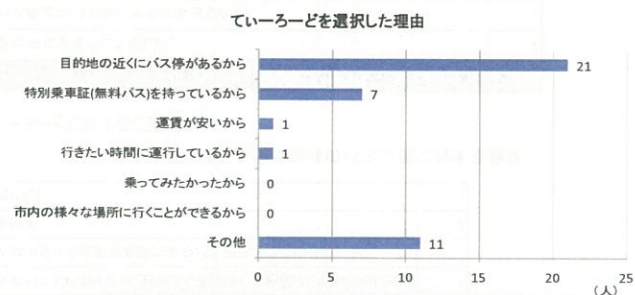
1. 調査概要

- (1) 調査場所：入間市駅、武蔵藤沢駅
- (2) 調査日：平成27年7月3日（金）
- (3) 調査方法：調査員による利用者への直接聞き取り調査
- (4) 調査数

	入間市駅	武蔵藤沢駅
ていーろど利用者	13	16

2. 調査結果

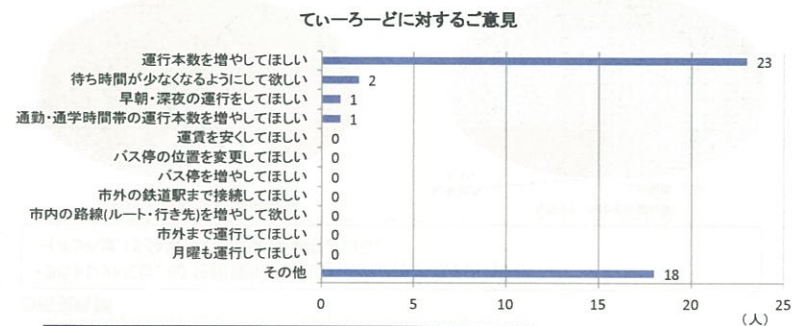
○ていーろどを移動手段として選択した理由



その他の理由	n
運転免許証を返納したため(他の手段がない)。	2
現状のダイヤで問題なし。	1
仕事のため。	1
自宅付近の道は一般サイズのバスは通れないためバス停がない。	1
自分自身にとって利便性があるので。	1
西武バスの運行が少なくていーろどの方が利便性があるので。	1
西武バスも100円で乗れるが節約のため。	1
普段利用しているバスに乗りできなかった時。	1
未回答	2

図 1-60 ていーろどを選択した理由

○ていーろどに対するご意見



その他の意見	n
1時間に2本程度は運行してほしい。	3
バスの時間帯に合わせて電車利用しないといけない。	1
バスの時間帯に合わせるので問題なし。	1
以前は時間帯によっては1時間に2本あった時間帯もあったのに。	1
運転手の運転動作がよくない人もいる。	1
座席が足りない。	1
時間が不規則。	1
乗降に時間のかかる方もいるので遅れるのは仕方ないと思っている。	1
他のバス停の場所で分かりにくい場所がある。	1
遅延が多い。賃金を払っているのできちんと運行してほしい。	1
利用者が少ないので本数増便は難しいのかな。	1
間が空く時間に増便してほしい。	1
特になし。	4

図 1-61 ていーろどに対する意見

○入間市全体のバス運行に関するご意見

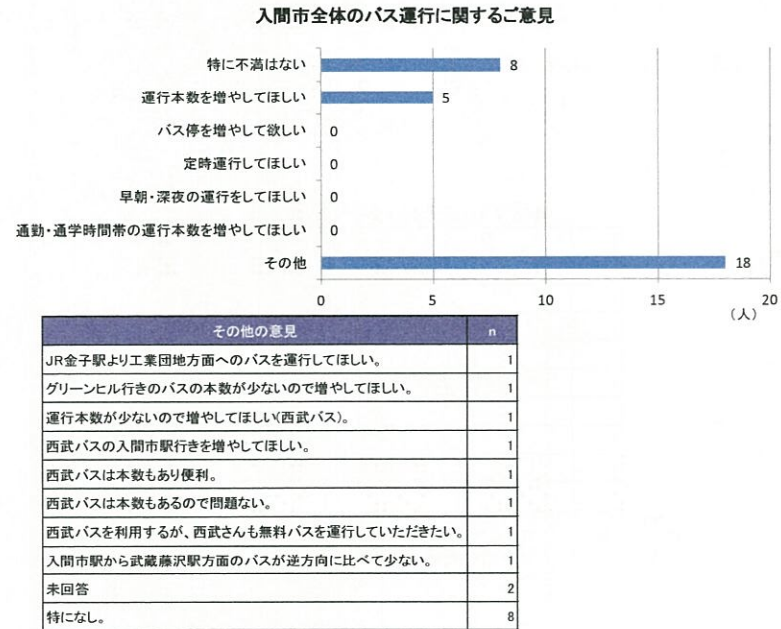


図 1-62 入間市全体のバス交通に対する意見

○ていーろーどに対するご要望

ご意見・ご要望	n
運行本数を増やしてほしい。	4
バス廃止の話に耳にするが本当なのか。	1
もっと座れるような大型バスにしてほしい。	1
以前に比べると本数が少なくなった。	1
皆本数が少ないと言っている。	1
間の時間帯に便を増やしてほしい。	1
現状維持をお願いしたい。	1
今は無料で乗れるが有料になってもいいので本数を増やしてほしい。	1
混んでいても座れるようであれば大きいバスにしてほしい。	1
所沢市、狭山市は料金の改定があったようだが入間市も同様になるのだろうか。現状維持でお願いしたい。	1
昔に比べると運転手の教育がなっていない。	1
仏子駅から乗ることもあるが、待っていてもなかなかこないことが多いため諦めて坂を歩いて帰ることがある。ていーろーどは狭い道まで入ってきてバス停が近いので便利ではあるが本数が…。	1
特になし。	1

(3) 来訪者インタビュー調査

来訪者の移動手段や行動特性(立ち寄り場所等)を把握するとともに、公共交通バスの利用意向(利用しない理由等)を確認した。

1. 調査概要

- (1) 調査場所：三井アウトレットパーク入間、イオン入間店
- (2) 調査日：三井アウトレットパーク入間 平成 27 年 6 月 29 日 (月)
イオン入間店 平成 27 年 7 月 5 日 (日)
- (3) 調査方法：調査員による来訪者への直接聞き取り調査
- (4) 調査数

	アウトレット	イオン
来訪者調査数	122	113

2. 調査結果

○移動手段

・両店舗とも「マイカー」が約 7 割を占める。
・アウトレットへは、路線バスの利用も多く、約 3 割を占める。イオンへは、自転車での移動が約 2 割を占める。

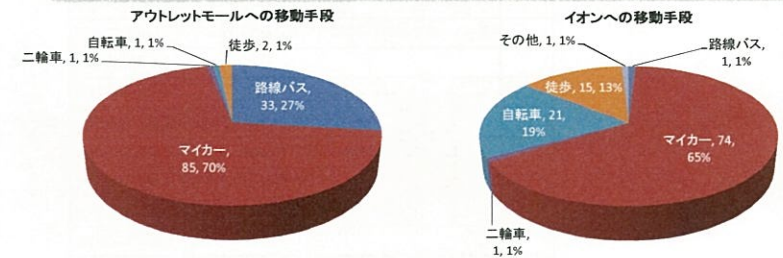


図 1-63 移動手段

○所要時間

・アウトレットには、60 分程度かけて来られる方が約半数を占める。
・イオンへは 15 分程度の方が約 8 割を占める。

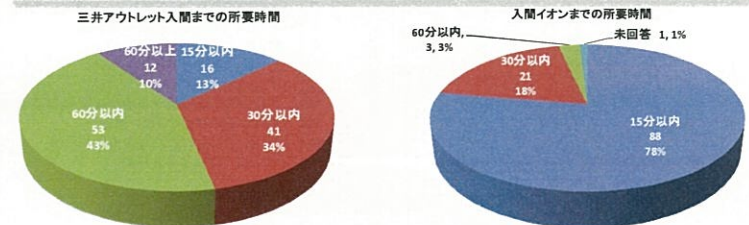
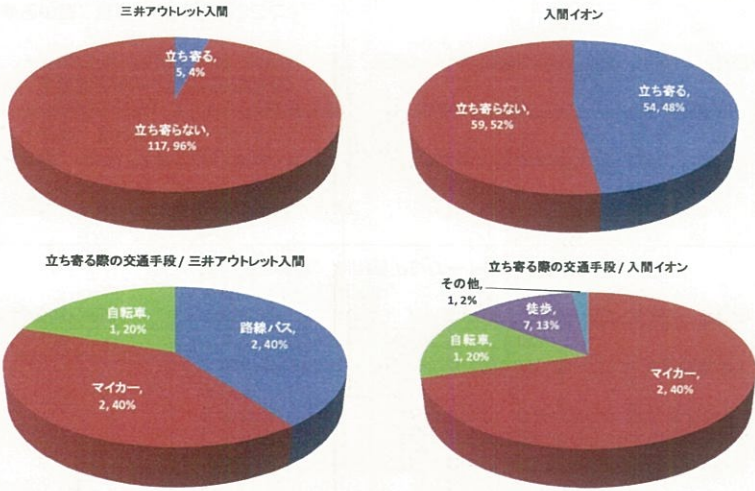


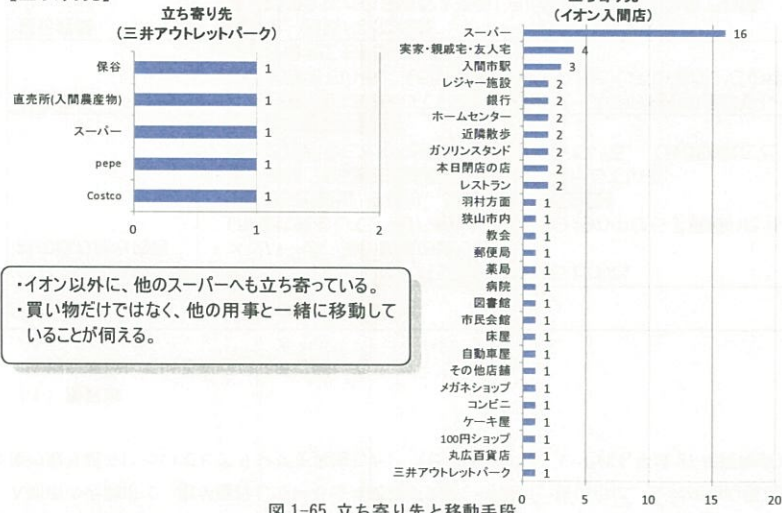
図 1-64 目的地までの移動時間

○立ち寄りの有無とそこへ手段

- ・アウトレットへ来られる方は、アウトレット自体が移動目的となっており、他への立ち寄りはない。
- ・イオンへは、イオン以外へ立ち寄る方が、約半数を占める。



【立ち寄り先】



- ・イオン以外に、他のスーパーへも立ち寄っている。
- ・買い物だけではなく、他の用事と一緒に移動していることが伺える。

図 1-65 立ち寄り先と移動手段

1-4. 入間市内関連部局の動向

公共交通に関して、他部局での考え方や、今後の施策の方向性などについて、調査を実施した。

(1) 高齢者福祉課

①シルバータクシー券について

配布枚数と利用状況 (H27 年度実績)	配布枚数 3,022 人 68,412 枚 利用状況 39,477 枚 (約 58%) →約 23,686 千円 (市の負担分)
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市の財政的負担が大きい。 ・H23 年度廃止予定であったが、存続を望む声もあり、支給対象者の年齢を 1 歳ずつ引き上げながら、配布してきた経緯がある。 ・H28 年度末で廃止を予定している。
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバータクシー券の廃止に伴う、代替サービスが必要と考えている。(要援護高齢者等タクシー券は存続) ・過剰サービスではないかという声がある一方で、必要とされる方もいる。幅広い対象者へのサービスとして、今後、デマンド交通の検討を始める予定である。 ・市の負担が一定となるような仕組みを考えていきたい。

②ていーろーどの活用について

- ・交通空白地を無くすことが重要と考えており、公平なサービスを提供できることが必要である。
- ・将来的に、デマンド交通と一体的に、市民の足としての活用を考えていきたい。

(2) 商工課

【第 6 次総合計画における観光政策素案 (平成 27 年度時点)】

政策名称	観光の振興	
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の知名度や魅力を高め、地域が活性化するような観光振興を図る。 ・既存の文化的・伝統的な観光資源に加えて、新たに期待されるスポット等を活用した観光資源の開発を図る。 	
施策の方向性 (一部抜粋)	主な取組	内容
	魅力の発掘	まちなか観光資源、自然環境資源、歴史文化資源等の発掘
	魅力の開発	まちなか観光資源、自然環境資源、歴史文化資源等開発
	観光コース等の開発	魅力を具体的に体験できるコース等の開発を進める。

1-5. 近隣市の動向

入間市の近隣市で、市が運行している公共交通がある、所沢市、狭山市に、公共交通の現状や今後の取り組みについてヒアリングを実施した。（ヒアリングは、いずれも平成 27 年度時点）

(1) 所沢市

①現在運行している巡回バス等に関して

運行開始	平成 10 年から運行開始
公共交通会議等、現状の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度、地域公共交通会議を立ち上げた。 メンバーは、条例記載の通り。（市民代表として、無作為抽出した 300 名の中から了承頂いた 4 名の方を選出。学識は、東洋大学 尾崎教授） 福祉対策、交通空白地域解消を目的に運行している。 運行に関することは交通安全課で担当している。（政策的なことを総務企画課が担当）
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 年々、利用者は増加しているが、採算ベースでの利用率を増やしたいと考えている。（65 歳以上は 100 円としているが、この年齢層が増えても採算上は厳しい）
運行経費	<ul style="list-style-type: none"> 運行は、西武バスに委託 運行経費全体から運賃収入を差し引いた額を、市の単費で補填。 12 台のバスを保有しており、11 台が常時稼働している。
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 年々増加はしているが、利用者数が少ないことが課題。 平成 25 年に交通不便地域を対象とした利用者アンケート調査を行っており、その中では、「今は車に乗れるからバスを利用する必要がない」という意見が多かったが、今後は状況も変化すると考えられる。 11 台常時稼働は地方に比べると多いが、5~10 年後を見据えてやっていけないと聞いている。
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共会議とは別に、庁内の検討会も立ち上げている。今後の改善の方向性を検討中。 平成 27 年度、利用者アンケート調査を実施予定。

②今後、入間市バス路線との連携について

- ◆今後、巡回バス等の運行見直し時に、他市域との接続・連携を考える可能性
 - 是非、取り組みたいと考えている。
 - 利用者からも、そういった要望が寄せられている。（西武フラワーヒル周辺の利用者が入間駅方向への運行を希望等）
 - 近隣 3 市（所沢、入間、狭山）ともに、西武バスへの運行委託であり、可能性はある。
- ◆その際、課題となりそうなこと
 - 料金体系の違いと収受方法
 - 所沢市では、現在 65 歳以上の方は、均一料金制で 100 円としているが、こういった要件も市によって異なる。



(2) 狭山市

①現在運行している巡回バス等に関して

運行開始	<ul style="list-style-type: none"> 平成 10 年 4 月から（2 台 4 コース）福祉循環バスとして運行 平成 13 年 6 月（3 台 6 コース） 平成 17 年 10 月 1 日交通防犯課へ所管替え 平成 18 年 7 月 1 日「市内循環バス（茶の花号）」に名称変更 平成 23 年 4 月 1 日 通勤・通学 2 コース、市内循環コース 6 コース
公共交通会議等、現状の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 「公共交通会議」等の検討組織は、現状ではない。 今後、循環バスのみならず、路線バス、新たな公共交通機関の必要性を含め検討する必要もあり、協議会等の組織化は必要と考えている。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況 平成 24 年度 68, 218 人 平成 25 年度 73, 435 人 平成 26 年度 76, 841 人 ルートの見直し、増便の要望有
運行経費	<ul style="list-style-type: none"> 運行経費から利用料金を差し引いた額を、バス事業者に補填 平成 26 年度 運行経費 49, 929, 251 円 料金収入 8, 784, 362 円 補てん額 41, 144, 889 円
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスを補完する公共交通機関として「循環バス」を運行しているが、道路環境等の問題から、空白地域をカバーすることに限界がある。 ルートの見直しや増便に関する要望があるものの、財政的な問題がある。 ますますの少子高齢化を控え、循環バスも含め、どのような手法で「市民の足の確保」を目指していくかが課題である。
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 様々な課題はあるが、平成 23 年のルートの見直しから 5 年目を経過する事からまずは、循環バスに関する「利用状況調査（OD 調査）」をする予定である。 市内全体の「公共交通のあり方」を議論する場が必要なことから、組織の立ち上げを今後検討する必要がある。

②今後、入間市バス路線との連携について

- ◆今後、巡回バス等の運行見直し時に、他市域との接続・連携を考える可能性
 - 現在、入間市、狭山市など行政区域内での循環バスが運行されているが、行政境で U ターンしている状況がある。
 - 路線バスも利用者の減少から、減便が続いている中、両市民の利便性の確保を図るためには、今後、行政境を越えた循環バスルートの運行は重要なことと考える。
 - 入間市との相互乗り入れを想定した場合、新宿線と池袋線の連絡強化が想定される。
 - 例：狭山市笹井地区と入間市野田地区の乗り入れ、仏子駅との連絡
：狭山市入間地区と入間市藤沢地区の乗り入れ（新宿線と池袋線との連絡）
：その他
- ◆その際、課題となりそうなこと
 - 相互乗り入れを実施した場合、循環バスの運行経費をどのように負担していくか。
 - 道路交通事情等で、定時制が確保できるか。



1-6. 入間市公共交通の現況のまとめ及び課題整理

(1) 公共交通の現況のまとめ

入間市の地域現況、アンケート調査、ヒアリング調査等の結果から、公共交通の現況に関して、以下の3点の視点でまとめる。

現況のまとめの視点 ○日常生活における移動手段 ○利便性 ○公共交通の維持

日常生活での移動手段

【公共交通の状況】

- 市内の東側を西武池袋線（武蔵藤沢駅、入間市駅、仏子駅）、西側をJR八高線（金子駅）が通過している。
- 入間市駅、武蔵藤沢駅を起点に、三井アウトレットパーク入間方面、河辺駅方面、入間扇屋団地方面へ、仏子駅を起点に仏子ニュータウン方面へ路線バスとして西武バスが運行している。
- 路線バス利用者に関しては、大きな不満要素は見られない。
- 現行の電車・バス交通では、金子地域や宮寺・二本木地域を中心に交通空白地域が発生している。

【ていーろーど】

- 市民の日常生活の移動手段確保として、路線バスがカバーできないエリアを、主に公共施設間を結ぶルートで運行を行っている。（3コース）
- 3コースの利用者数には偏りがあり、また、同一コース上でも、利用が多い区間と少ない区間とに偏りが出ている。（利用需要が少ない区間が存在する。）

【健康福祉センター行きバス】

- 健康福祉センター行きのバスとして運行しているが、実際は買い物、通勤・通学、帰宅などの利用目的の方が多く、健康福祉センター利用も含めた日常生活の移動手段として利用されている。
- ていーろーどの各コースよりも年間利用者数が多く、入間市駅から健康福祉センター周辺地域においては、バスの利用需要が高いと考えられる。

【公共交通の利用状況】

- 入間市民の外出目的は、「買い物」「通勤・通学」「趣味・遊び」「通院」が中心であり、利用交通手段は、自動車、自転車、バイクが多くを占め、バスの利用は非常に低い。

公共交通の利便性

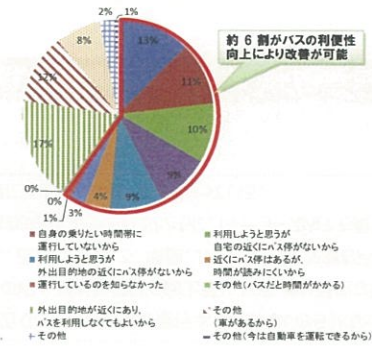
【ていーろーどの運行】

- 通勤・通学に利用できる時間帯の運行が無い。また、月曜日が休休日である。
- 運行本数が、各ルートで3~4便/日で、運行間隔が長い。
- 1コースの運行延長が長く、各コースとも所要時間1時間程度となっている。
- 全ルート、第1便が入間市役所からのスタートであり、特に、通勤・通学における利用については、各地域から駅等への移動手段としては利用できない。

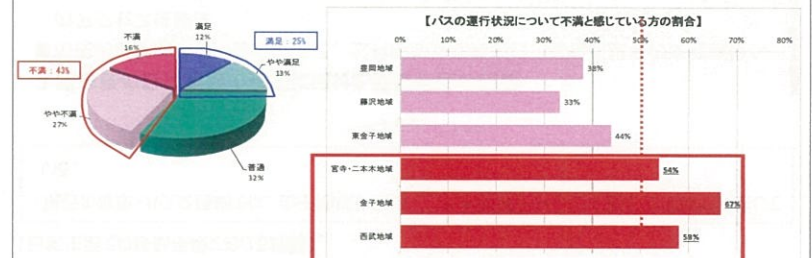
【住民意向】

○バスを「利用しない理由」においては、「運行本数が少ない」「自分の乗りたい時間に運行していない」など、バスの利便性の向上により改善が可能な理由となっている。

バスを利用しない理由



○現行のバス交通に「不満」を感じている割合が43%と約半分近くを上る。地域別では、「宮寺・二本木地域」「金子地域」「西武地域」では、不満の割合が過半数を占めており、交通空白地域での不満割合が高い。

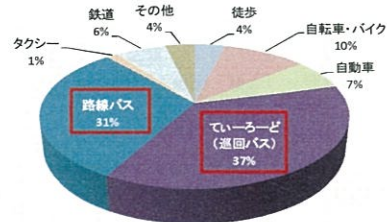


出典：市民アンケート調査（1127）

公共交通の維持

【将来のバスに関する意向】

○住民アンケート調査では、充実させるべき交通手段として、ていーろどが約37%と最も多く、次いで、路線バス(31%)と回答している。



【今後充実させるべき移動手段】

○日常の移動手段の中心が自動車となっているが、国勢調査、住民アンケート調査より、将来、車を運転できなくなった時を不安視する声は多い。

○住民アンケートにおける主な意見の抜粋

「これからの高齢化社会に向けてバス運行本数の増加とタクシー（高齢者に対して安い運賃のもの）の増車の検討を希望します。」

「将来、高齢になったとき、交通手段はタクシーだけになってしまいます。不安です。」

「年齢が高くなると自動車の運転ができなくなる。」

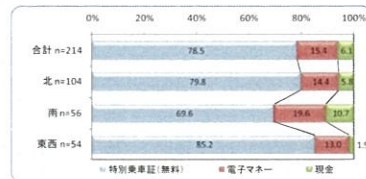
【公共交通の運行状況】

○平成27年10月15日をもって、飯能市～市営住宅～新光の3系統（いずれも国際興業バス）が廃止された。

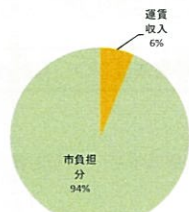
【ていーろどの運行経費】

○70歳以上の高齢者及び障害者については、特別乗車証（無料バス）が配布されている。それ以外の利用者は、対距離制の料金制度である。

○ていーろど利用者数の約8割が特別乗車証による利用であり、運行経費全体に対しての料金収入は約6%となっている。残りの94%は、市が負担している状況にある。



【利用区分割合】



【運行経費全体における料金収入の割合】

(2) 公共交通の課題と解決すべき方向性

公共交通の現況・利用状況をもとに、入間市の公共交通の課題をまとめるとともに、課題解決のための方向性を以下に記載する。

【日常生活での移動手段における課題】

・現行の電車・バス交通網では、金子地域や宮寺・二本木地域を中心に交通空白地域が発生している。

入間市民の日常生活の支援に向けた移動手段の確保

- 市民の日常的な利用施設である、公共施設や商業施設、福祉施設等の交流施設へのアクセス性確保
- 入間市民の移動手段確保に向けた公共交通空白地域の解消
- バス停周辺的环境整備（駐輪場、屋根等）

【利便性における課題】

- ・バスを利用しない理由のトップは「近くにバス停はあるが運行本数が少ないから」となっている。また、バス交通に対し、不満と考える理由の約6割が利便性の向上等により改善が可能な理由である。
- ・バス運行に関して不満割合が高く、改善要望として、増便、ルート変更などを望む声が高い。
- ・ていーろどは、コース毎に利用者数の偏りが見られるとともに、同一コース内でも乗降が多い区間と少ない区間があるため、利用需要に対応していない運行となっている。

公共交通の利便性確保

- 利用者ニーズに対応した公共交通の運行経路・本数などのサービス水準の設定

【公共交通の維持面での課題】

- ・ていーろどの約8割の利用者が特別乗車証による利用であり、運行経費全体に対して運賃収入は6%となっている。今後、高齢化が進めば、さらに特別乗車証での利用が増えるものと想定される。
- ・ていーろどや路線バスの充実を望む声が大きく、また、運転ができなくなった時を不安視する声も多い。

公共交通の維持・改善

- 厳しい財政状況下での公共交通サービスにおける行政経費の削減を図りつつ、公共交通の維持・改善策の推進
- 公共交通の利用促進、効率的な運行計画による公共交通の収益性向上
- 持続可能な公共交通に向けた市民や交通事業者、近隣自治体等との協働体制による運営の仕組みづくり